
IS 《インフィニット・ストラトス》 さすらいの5人衆

サーシェス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

インフィニット・ストラトス

ISさすらいの5人衆

【Nコード】

N7492X

【作者名】

サーシエス

【あらすじ】

神羅翔、獅子堂渉、織斑一夏、五反田弾、御手洗数馬この5人の男がIS学園に乱入！そして青春を謳歌？するお話・・・なのか？

第1話く5人衆推参!!く(前書き)

始めましての方、おなじみのかた、どうもサーシェスです!!

これはコメディー重視です(書いていれば)

ゆっくり見ていってください。

第1話〜5人衆推参!!!〜

第1話〜5人衆推参!!!〜

IS。正式名称『インフィニット・ストラトス』と呼ばれる兵器が現れたのは今から数年前。世界各国の軍事基地にハッキングが仕掛けられ発射されたミサイルを全て撃ち落とし、その威力を恐れた各国空軍による襲撃を退けた『白騎士事件』に置いて一気に世界最強の言葉をほしのままにした。しかし、ISは女性にしか扱えないという事実が発覚してから世界は一気に女尊男卑の傾向が強くなった。しかし、だからと言って男性が裏で権力を持ち続けているのも事実。しかし、民間レベルでは確かにその傾向があった。そして、様々な事情からISを扱うに相応しい存在を育成するための教育機関が日本に作られた。もっとも、その資金は外交弱者の日本が大国に言いくるめられて全て自費で出すことになったが。

そして、そのIS学園に5人の男がいる。神羅翔、獅子堂渉、織斑一夏、五反田弾、御手洗数馬の5人。ISは女性にしか反応しないという常識を打ち破った三人。すぐに研究所行きかと思われたが、下手に働きかけるとまずいということで、IS学園に事態が落ち着くまで入れさせられた。とにかく、彼らは自分たち以外女子という異界にも等しい学校に通うことになったのだ。その5人はいくつと――。

弾「ソロモンよ、私は帰ってきた!」

翔「その歪み・・・俺が駆逐する!!」

渉「任務・・・了解」

数馬「月光蝶である!!」

ガンガンやってましたwちなみに席は男子が一塊にされています。本人達はこの席でとても感謝している。

「みなさん。席についてください」

教室に入ってきたのは先生のようなが・・・本当に先生か?どうみても同じ年にしか見えない。

「ではSHRを始めますそれでは皆さん1年間宜しくお願いします」
「「・・・」」

山田先生が挨拶をするが皆無視。視線はすべて中央の男子に注がれている。

「えーっと・・・では自己紹介をお願いします・・・」

誰も返事をしない。見ろ先生がオロオロしてるぞ。

「神羅君。自己紹介してくれませんか?」

「わかりました」

「俺は神羅翔。趣味はギターとゲーム。特技は料理を作る事・・・ぐらいか?」

それと5人でバンドを組んでました。これからよろしくな!」

笑顔で言うと女子全員が顔を赤らめる。まだ男子がいるので歓声はあがらない

「獅子堂涉だ。趣味は読書とキーボード。特技は翔と同じだ。よろしく頼む。」

「えゝ五反田弾です。趣味はベースとゲーム。特技は実家が食堂なので料理が得意です

これから迷惑をかけると思いますがよろしく。」

「御手洗数馬です。趣味はドラムと読書。特技は手先が器用な事ぐらい。

何か困った事があったら言ってくれ。よろしく。」

順調に自己紹介が進む

だが・・・問題はここからだった・・・

「えゝっと、織斑一夏です。よろしくお願いします・・・」

他の4人が濃い自己紹介をしたため、女子からは「他には?」「もう終わり?」という視線が突き刺さる
あせった一夏は親友に助けを求める。

「(助けてくれ!)」

「（（（自力でやれ）））」

何とも冷たい親友達。一夏は考えたあげく・・・

「以上です!!」

ガタガタッ!

生徒全員がずっこける。

「えっこれじゃあ駄目ですか？」

「「「駄目にきまつとるわ!!!!」」「」」

親友4人から鋭い突っ込みが飛ぶが、その後ろにはさらに恐ろしいものがいた。

「何をしとるか貴様は!」

一夏「げえ! 関羽!!」

数馬「げえ! 呂布!」

翔「あっ、お久しぶりです。千冬さん」

渉「お久しぶりです。千冬さん」

弾「一夏、数馬! お前らひどすぎねえーか!? 翔と渉も悠長に挨拶すんなよ!

それと千冬さんお久しぶりですね」

「「「お前も普通にあいさつしてんじゃねえーか!!」」「」」

バシン！バシン！コツン、コツン、コツン

勿論全員が叩かれた。一夏と数馬は本気で、翔と渉と弾には角で軽く叩いた。

「誰が三国志の英雄と猛将かバカモノ!!」

それと神羅、獅子堂、五反田学校では織斑先生と呼べ。いいな」

「「「わかりました。織斑先生」」「」

「よろしい」

一夏と数馬は絶賛悶絶中であつた。

朝の段階の第一印象は

翔↓明るいお兄様てき存在

渉↓クールのお兄様てき存在

弾↓やさしいお兄ちゃんてき存在

数馬↓頼りになるがバカなお兄ちゃんてき存在

一夏↓・・・・・・バカ?・・・・・・

となっていた。

第1話く5人衆推参!!く（後書き）

いかがでしたか？

御手洗数馬君はオリキャラ化しています。

次回はキャラ設定を書きます

感想、アドバイスどしどし送ってください!!

キャラ紹介

キャラ紹介

名前 神羅 翔

身長 180 cm

体重 68 kg

容姿 クライシスコアのザックス

好きなこと 料理、ギター、友達、読書、ゲーム

5人衆のナンバー1

名前 獅子堂 渉

身長 180 cm

体重 66 kg

容姿 FFのスコール・レオンハート

好きなこと、読書、キーボード、料理、ゲーム

5人衆のナンバー2

名前 御手洗 数馬

身長 178 cm

体重 65 kg

容姿 鉄のラインバレルの森次玲二

好きなこと ドラム、読書、ゲーム

5人衆のナンバー3

名前 織斑一夏

身長 177 cm

体重 64 kg

容姿 上の中

好きなこと、ギター、ゲーム、料理

5人衆のナンバー4

名前 五反田 弾

身長 178 c m

体重 65 k g

容姿 上の下

好きなこと、ベース、ゲーム、料理

5人衆のナンバー5

キャラ紹介（後書き）

簡単に書きました。

次回はイギリスさんが登場！！の予定

感想、アドバイス送ってください

第2話「金髪ドリルはうるさい」(前書き)

サブタイ考えるの大変だ・・・

ゆっくり見ていってください。

第2話「金髪ドリルはうるさい」

第2話「金髪ドリルはうるさい」

「・・・」

カリカリ

「・・・」

カリカリ

「えーと、これがあれと・・・」

ピタッ・・・カリカリ

「これが・・・これと・・・わかりずら」

ピタ・・・カリッ・・・カリ

現在1時限目。ISの授業、翔と渉は黙々とノートに書き写していく。弾と数馬はときどき唸るがそれでもノートに書いていく。だが一夏は・・・

一夏「（・―・）（・―・）」

キヨロキヨロしていた。

それに気づいた山田先生は

「織斑君。何か分からない所はないですか？もし分からなかったら私に聞いてくださいね？」

一夏は決心がついたようで・・・

「・・・じゃあ、山田先生」

「はい。織斑君」

「ほとんど全部わかりません（ゝ・ω・ゝ）」

キリッとした決めたつもりだが言ってる事は恥ずかしい。

「織斑。参考書は読んだか？」

そして、黒き騎士王降臨

「あの分厚い奴ですよね？」

「そうだ」

「古いタウ〇ページと間違っ
て捨てました。」

バシィイン!!

出席簿・・・否、約束された勝利の剣が発動
エクスカリバー

叩かれた一夏は頭から煙を出し地面をゴロゴロしながら、悶絶。

ソレを見た生徒はどん引きして、男子4人は必死に笑いを堪えていた。

「織斑。再発「織斑先生。俺たちの貸すんで平気ですww」すまんな」

助け舟を出すのは、翔・・・まだ笑っているが

「たすか」「」「ほら教本だw」「」あ、ありがとうな」

これが友情なのだろう。一夏は親友の優しさに涙を流した・・・
決してタウンページ4冊がすべて頭に当たったわけではない。

「ちょっといいか？」

「ふえ？」

授業が終わり一夏がポニーテールの女性に話掛けられる。

こちらに目を向け、教室を出て行った。

数馬「なあ。もしかして……」

渉「ああ。いつものあれだ……」

弾「たぶん。いつもの朴念仁だろ……」

翔「それ以前に男が「ふえ？」って……」

「「「ないな」」」

4人は譜面を取り出し、新しい曲を考える
その時隣で金髪ドリルが話しかけてきたが、偉そうなので無視。

弾「そういやさ。クラス代表とかどうなるんだ？」

渉「次の授業で決めるんじゃないか」

翔「たぶんな。俺たちは100%代表の候補に上がるな」

「「「たしかに……」」」

そしてチャイムが鳴り、遅れて一夏達が入ってきて、千冬の制裁を
喰らった

いいかげん学習しないのか？

「再来週行われるクラス対抗戦の代表を決めたいと思う」

4人の予想は100%当たり・・・

「織斑君がいいと思います！」

「私は神羅お兄様がいいです！」

「え？獅子堂お兄様もいいわよ！」

「五反田君でしょ！」

「御手洗君よ！」

やっぱり男子が候補になった。すると一夏が反論する前に

「お待ちなさい。そんな事認められる訳がありませんわ！！」

さっき4人が無視した。金髪ドリルーセシリア・オルコット

「納得できませんわ。男がクラス代表なんて良い恥さらしですわ。
(セシリアの話は長いw) 大体文化としても後進的な国で暮らす
こと自体耐えがたい苦痛で…」

セシリアに突き刺さる視線。それもそうだろうこのクラスの半分以上は日本人。

今日1年1組は揺れた。

そして代表決定戦は一夏対セシリアで行われる事になった。

第2話「金髪ドリルはうるさい」(後書き)

力関係は・・・

翔∥涉>>>超えられない壁>数馬∥弾>一夏・・・カンジです

感想、アドバイスどしどし送ってください!!

ヒロインアンケート!!!!!!

ヒロインアンケート!!!!!!

サーシエスです!!これよりヒロインアンケートを取
りたいと思います

すでに一夏のヒロインは決めています!!

一夏のヒロインは、箒、セシリア、簪 となつて
います!!

そして残りの、鈴、ラウラ、シャル、楯無を分けたい
と思います!!

例

翔 楯無

渉 ラウラ

弾 鈴

数馬 シャル

こんなカンジで書いていただけると嬉しいです！！

締め切りは10月22日の朝7時まで受け付けます！

！！

どんどん送ってくださいね

もしヒロインで不満があれば言ってください

それでは待ってまーーす

第3話「命を懸けた部屋のカギ争奪戦!!」 (前書き)

ヒロインこちら

翔 楯無

渉 シャル

弾 鈴

数馬 ラウラ

になりました!!

アンケートに協力いただきありがとうございました!!

第3話「命を懸けた部屋のカギ争奪戦!!」

第3話「命を懸けた部屋のカギ争奪戦」

～教室～

一夏「だあ～全然わかんねえ!!」

翔「参考書を見てないお前が悪い」

数馬「自業自得だ」

弾「てか、こんだけ教えてもわからないって……」

涉「参考書見てない以前に……」

「」「」「バカだな」「」

一夏「・・・orz・・・」

だが少しだがわかってはいる。

山田「あ、よかった。全員いますね」

千冬「・・・なぜ織斑は落ち込んでいるんだ？」

山田先生、織斑先生が入ってきた。

弾「織斑先生。俺たちに何か用でもあるんですか？」

千冬「ああ。お前達の寮の部屋のことだ」

渉「確か部屋はまだ用意できないと言っていますませんでしたか？・・・」

山田「政府から、今すぐ部屋を用意しろ、と通達がありました、3つ部屋を用意しました」

千冬「部屋は一つが女子と同室、一つが3人、最後に一人部屋の3

つだ」

それを聞いた途端、ガタツと立ち、拳を握り

翔「お前ら恨みっこなしだぞ！！！」

「「「上等！」「」」

「「「「うおおおおお」」「」」

唸りを上げ、距離を詰める。

山田「みなさん！喧嘩はダメですよ！」

止めようとするが無視。

「「「「じゃんけんぽん！！！！」」

ガタツ！と山田先生がズッコける

翔、涉、弾、数馬　グー

一夏・・・・・チヨキ

一夏「ノオオオオオ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

魂の叫びを上げる一夏・・・・・・・・あわれなり

その後、翔が一人勝ち・・・・そして

翔「じゃあ、俺一人部屋で」

渉「なら・・・・」

数馬「俺たちは・・・・」

弾「3人部屋で・・・・」

千冬「わかった。まず神羅に1024号室の鍵だ」

翔「あざーす！」

山田「では、獅子堂君、五反田君、御手洗君には1026号室の鍵

です」

「「「ありがとうございます」」」

千冬「織斑には1025号室の鍵だ……変な事はするなよ？」

一夏「絶対にしません!!」

数馬「それで俺たちの荷物は……」

千冬「着替えと、携帯の充電器……それと一応それぞれの楽器を持ってきてやった。」

お前達は楽器がないと落ち着かんのだろうか？」

「「「「よっしゃあ!!」」」」

5人が言うには、少ないが楽器があれば何でもいいらしい。

その後、風呂の事を話され、一夏が『男子は入れないんですか?』
と言ったためその場にいた全員に呆れられ、変態王と言う不名誉な
勲章がついた。

千冬「それでは、各自部屋に向かえ」

その言葉で、5人は部屋に向かった。

〽一夏の場合〽

一夏「ここが1025室」

意を決して、ノックをする

? 「同室のものか？」

この声は・・・・・・・・

扉を開けると

箒「一夏!？」

箒が同居人か・・・・・・・・・・はあ

一夏の部屋の同居人は箒でした

く渉、数馬、弾く

弾「おく結構広いなだな」

数馬「確かに。・・・ベッドはどうする？」

渉「俺は一番奥」

弾「じゃあ、真ん中」

数馬「なら、俺は一番手前だな」

そして荷物整理が終わり・・・

渉「そろそろ、みんなを誘って飯でも行くか」

弾「おっいいね！」

数馬「なら早く誘いに行こう」

そして部屋を出た・・・

（翔の場合）

ガチャ

？「ご飯にします？お風呂にします？それともわ・た・し？」

ボタン！

ここは一人部屋じゃなかったのか！？それになぜ裸エプロンなんだ！・・・俺には水色の髪の毛の知り合いなんていないぞ？・・・もしもう一回同じの来たらからかうか・・・

そして再度開ける

？「ご飯にします？お風呂にします？それともわ・た・し？」

翔「じゃあ、君で」

？「へ？・・・きゃ！」

俺は女子にお姫様抱っこしてベットに直行。そのまま上に覆いかぶさるようになる。

翔「そういや、名前なんていうの？」

楯無「私は更識楯無って言うの。あなたは？」

翔「俺は神羅翔」

楯無「そういえば・・・なんでこうなってるのかな？」

翔「だってお前が言ったんだろ？」

楯無「いや、あれは冗談なんだけど・・・」

俺は耳に口を近づけ

翔「俺的には楯無みたいなかわいい子を抱けるのは嬉しいんだけど・・・」

楯無「／／／／／」

耳まで真っ赤だな・・・そろそろばらす「ガチャ」・・・え？

一夏「翔。一緒に飯いk・・・」

弾「一夏固まってd・・・」

渉「どうした？翔はいn・・・」

数馬「お前ら固まってどうs・・・」

箒「どうしたんだ？かたm・・・」

現在の構図

俺⇒楯無に覆いかぶさっている

楯無⇒顔を真っ赤にして抵抗の証もない

一夏、弾、数馬、渉、箒⇒・・・・・・・・「（。Д。）。ポカーン」

「「「「お邪魔しました!!!!!!!!!!」」」」

翔「ちょ、お前らこれはちが」

ボタン

言い切る前に部屋を出て行った

その後、楯無にからかったただけと言うと、顔を真っ赤にして小声で「別に君ならよかったのに・・・・」と呟いていた。・・・・聞こえているんだが。

その後先輩だという事がわかり、誤り先輩呼びしようと思ったんだが「呼び捨てでいいよ♪」
と言われたから楯無と呼ぶ事にした。

その後、楯無は部屋を出て行った。

・・・あいつらになんて言おうかな・・・

余談だが5人に分かってもらうまでは時間が掛かった。

（楯無）

「からかうつもりで言ったんだけど・・・逆にからかわれちゃったな・・・」

ベットに押し倒され、その時言われたことが思い浮かぶ

「でも・・・翔君になら抱かれてもいいかな・・・」

廊下を歩く、楯無の顔は終始赤かった・・・

第3話「命を懸けた部屋のカギ争奪戦!!」 (後書き)

こうでもしないと楯無フラグが立たなかった!!

感想、アドバイスどしどし送ってください!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7492x/>

IS《インフィニット・ストラトス》さすらいの5人衆

2011年11月16日02時38分発行